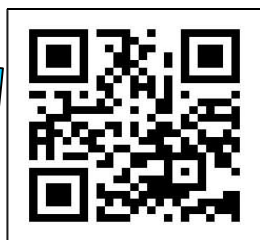




鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—155 2023.12.1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

大学での講義 初体験！

副代表 満永 正幸

10月20日、連合鹿児島の寄付講座のカリキュラムの一環として、鹿児島大学において「公務労働の現状と公共サービスの課題」と題して90分の講義を担当しました。高卒の私が大学で講義を行ったのは、もちろん初めてであり、自分の子供たちの年代に向けて話をするという異様な光景から始まった。約200人の学生を前に当初少し緊張していたようですが、学生が頷いてくれる度に緊張が解れていった。感心させられたのは、講義終了まで誰1人席を立つことなかったことである。もちろん講義なので当たり前なのかもしれないが、労働組合で話した時とは対照的だった。

さて、約半年前にカリキュラムが決まって以降、どのように組み立て、学生に何を伝えようかと考える日々でした。文系の学部だったので公務員を志す学生が多いのではと思い、あまり悲観的な内容では困るけど、一昔前のコマーシャル「公務員！」のように簡単に考えてもらっては困るという思いでした。まずは、公務員数・賃金が世界的に見ても少ない・低い現状を

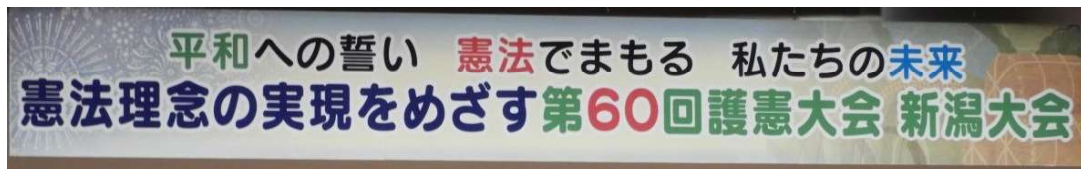
ともに多様化・複雑化する行政ニーズを紹介した。新型コロナウイルスへの対応や頻発する自然災害への対応なども地方公務員には課せられている課題であると同時に、福祉・医療・介護・保育・子育てなど多種多様な任務があることも伝えた。学校主事や清掃職場、病院・保育所なども自治体運営であることや国の集中改革プランなどによって、減少する正規職員に反比例して増えている会計年度任用職員の実態等も伝えた。さらに東日本大震災後の復興に携わった話や熊本地震の本震体験談を話した。あつという間の90分でまだまだ多くのことを伝えたかった。



講義を終え、後日、学生たちの意見や感想を書いたレポートを頂いた。167人分の様々な視点からのレポートにすべて目を通し、私が最後に話した下記の内容に反応している学生が多かったことに少しホッとしました。貴重な体験でした。

将来、どのような職業につきたいですか。

地球上にはすべての場所にありとあらゆる「働く」ことがあります。なんのために働くのか。食べるために、生きていくために・・・それは当然としても、自分ひとりで生きているわけではありません。他者の役に立つ、誰かを助け支えることが、社会で「働く」ということではないでしょうか。ハンディキャップをおっている、持てる能力を発揮してできることがあります。そのとき、楽しみながら歩んでいけることを願っています。恐れることはありません。つらい時も、ちゃんと声を上げて周囲に助けを求めましょう。休むことや逃げることも大事。きっと誰かが、何かが、あなたに手を差し伸べてくれます。あなたに他人を思いやる気持ちがあれば！



第60回全国護憲大会は11月11日～13日の3日間、新潟県新潟市で開催されました。11日に開会式が行われた「新潟県民会館」には、鹿児島の15名を含む1400人が参加しました。このうちの半数以上が初めての参加で、オープニングを飾ったのは、地元の「新潟ろうあ万代太鼓・豊龍会」の小気味よい太鼓の音色と30人が参加した「にいがた総おどり」のリズミカルな和おどりの舞台に圧倒され、元気をもらいました。印象に残ったのは、最後の代表あいさつで「私たちは、太鼓と踊りで平和を世界に訴えて行きます。目指すところは皆さんと同じです。争いのない世界平和と一緒に築いていきましょう」との言葉に、大きな拍手が起こり、鳴りやまなかったことです。開会総会は、地元の実行委員の司会で始まり、主催者あいさつで中央フォーラムの藤本・共同代表が「安倍・菅政権の路線を引き継いだ岸田政権は、安保3文書を国会の議論もないままに閣議決定し、日本を戦争のできる国から戦争をする国へと変えてしまいました。憲法理念の実現をめざす私たちは、ここ新潟に集い、戦後日本の分岐点となる安保3文書を撤回させ、平和憲法を改正させないとりくみをしなくてはなりません」と、訴えました。

次に、地元、来賓あいさつと続き、実行委員会の染・事務局長が基調提案を行いました。シンポジウムでは「憲法審査会の現実と今後の私たちのとりくみ」をテーマに、コーディネーター：飯島滋明さん(名古屋学院大学教授) パネリスト：新垣邦男さん(衆院憲法審査会委員) 打越さく良さん(参院憲法審査会委員) 杉尾秀哉さん(前・参院憲法審査会幹事) 吉田晴美さん(衆院憲法審査会委員) が参加して、衆・参議院の憲法審査会の審議状況、問題などを憲法審査会の委員である国会議員から報告を受け、その問題点を共有し、私たちの今後のとりくみを確認しました。

2日目は、①「現下の改憲情勢」問題提起・助言者：飯島滋明さん(名古屋学院大学教授) ②「軍拡・基地強化」問題提起・助言者：斉藤光政さん(東奥日報編集委員) ③「ジェンダー平等」問題提起・助言者：戒能民江さん(お茶の水女子大学名誉教授) ④「歴史認識」問題提起・助言者：西崎雅夫さん(一般社団法人ほうせんか理事) 吉澤文寿さん(新潟国際情報大学教授) ⑤「憲法を学ぶ」問題提起・助言者：清水雅彦さん(日本体育大学教授) の各分科会と「新潟水俣病を学ぶ」フィールドワーク、そしてひろば①地元企画「脱原発型社会を構想する」パネリスト：横山由美子さん(一般社団法人おらってにいがた市民エネルギー協議会副代表理事) 中山均さん(新潟市議、緑・にいがた代表) コーディネーター：佐々木寛さん(新潟国際情報大学教授) ②基地問題交流会講師：島袋夏子さん(琉球朝日放送) そして最後には、30品目の銘酒を揃えた地元特別企画「地酒交流会」が開催され、それぞれに参加した方は、ウクライナやガザ地区の戦争を目の当たりにし、改めて「平和憲法を、守らないといけない」と感じたことでしょう。

最終日は、閉会総会が①特別提起(沖縄・福島・山口) ②大会のまとめ③遠藤三郎賞表彰④平和運動賞表彰⑤大会アピール(案)決議⑥閉会あいさつが行われ、全日程を終了しました。参加していただいた皆さん、ありがとうございました。(参加者感想文は、後日特集号にて)



ブロック事務局長会議 沖縄で開催

全国連帯 11・23 県民平和大集会 (沖縄・奥武山公園) に参加

「沖縄を戦場にさせぬ」1 万人超が参加し県民大集会 開催



日米両政府による沖縄や南西諸島の軍事化に反対し、対話による平和の構築を世界へと発信する「11・23 県民平和大集会」(沖縄を戦場にさせない県民の会主催)が、11 月 23 日那覇市の奥武山陸上競技場で開催され、1 万人以上が参加しました。

沖縄が二度と戦争の被害者にも加害者にもならないようにとの願いを込めて「全国と全世界と団結して戦争を止める決意を内外に発信する」との宣言を採択しました。

来賓あいさつで登壇した玉城デニー知事は沖縄に基地が集中している現状や、辺野古埋め立てで代執行をちらつかせる政府に対し怒りをこめて批判し、「不条理の是正に共に行動しよう」と力強く訴えました。



同集会に参加した鹿兒島県護憲平和フォーラム各ブロック事務局長の報告は特集号にて掲載



鹿兒島に米軍はいらない県民の会は、11月6日に塩田県知事と九州防衛局鹿兒島事務所に対して、11月10日から始まる予定の「徳之島空港・奄美空港（民間空港）や港湾施設を利用した自衛隊によるタッチアンドゴーや輸送訓練について、「民間施設の訓練利用は憲法上許されない」「ただちに中止を」と申し入れました。しかし、県知事はこれを許可し、多くの危惧と反対の声を無視して訓練は実施されました。民間空港や施設の軍事利用は、危機を分散する日米の合意により行われているもので。「まさに

国民・県民の安全を脅かす」危険極まりない訓練ではないでしょうか。

始良伊佐ブロックでは、10月28日（土）に馬毛島視察をしました。参加者は19名。現地では熊毛ブロック代表の大石代表ほか、市民・団体連合会のメンバーと活発な意見交換を行いました。

馬毛島では、急ピッチで軍事訓練等の整備開発が日夜行われています。市民の暮らしでは、お店の商品などが不足し、ごみ処理問題など、今後の工事の作業員の大幅な増加となると、ますます市民の暮らしに影響がでてくることと予想されます。参加者が実際目で見て、聞いて、学んだことを今後の活動に活かし、平和の重要性と人々が関心を持てるように取り組みます。



南薩ブロック交流会は11月18日（土）午後から枕崎市（ボーリングは枕崎ボウリングセンター、交流会は「一福」）で開催、32人が参加しました。1位から5位、そして6位から10位までとブービー賞、ブービーメーカー賞が贈られました。

また参加者全員に「参加賞」枕崎名産品を持ち帰っていただきました。

懇親会は「一福」食堂で交流。あいさ

つで磨島・県フォーラム事務局長は「いま県内の基地が拡大・強化されていること。これをそれらの地域の問題とせず、地域・労組一体となって闘いを取りくんでいこう」と語られました。

北薩ブロック「不戦と誓う日の集会」案内

2023年12月2日（土）10時～12時 薩摩川内市中央公民館（川内市大小路町）

演題：「岸田政権の大軍拡・憲法改悪に反対しよう」講師：田中早人（ブロック議長）

お詫びと訂正（奄美での不戦を誓う日の集会案内に訂正がありました、下記が正しい案内です）

2023年12月9日（土）14時から 奄美市文化センター多目的ホール（奄美市名瀬長浜町）

演題：「憲法改正と戦争～52の論点」講師：清水雅彦（日体大教授・憲法学）